

第57回症例検討会
case78

眼球の灼熱痛に対する鍼灸治療の一症例

2026年6月8日
合同会社結 代表
山元大樹

40代 女性

主訴:眼球の灼熱痛、羞明、眼の渴き

医師の診断名:原因不明、斜視

家族歴:(父:なし)(母:ヘバーデン結節※加齢による)(子:なし)

既往症:大学生の時レーシックOpe

現病歴:自律神経の乱れ (スライド5参照)

医療機関:眼科5件、心療内科1件合わせて6件

内服薬:皮膚科の薬、抗鬱剤、抗不安薬を心療内科にて。お薬後述

サプリ類:オオバコ、クルクミン、ルチン、ゼアキサンチン、ブルーベリー

生活歴:アルコール週7 (缶ビール2本程度)

喫煙:あり一日10本

食事:1日3食(日によって時間は変わるが8:30,13:00,21:00)

出産歴:なし

アレルギー:化粧品アレルギー※具体的には特定できていない

検査:眼圧、視野検査など⇒結果は特に問題なし

薬の服用①

■皮膚

ダラシンTローション 1% (外用抗菌薬／ニキビ治療薬)

シナール配合錠 (ビタミンC製剤／抗酸化・色素沈着改善)

スピロラクトン錠 25 mg「日医工」 (利尿薬／抗アンドロゲン作用)

クラシエ十味敗毒湯エキス錠 (漢方薬／皮膚炎・化膿傾向改善)

リザベンカプセル 100 mg (抗アレルギー薬／炎症抑制)

ピドキサール錠 10 mg (ビタミンB6製剤／代謝改善・神経サポート)

■眼科

レバミピド懸濁性点眼液 2%「参天」5 mL (角膜保護薬／ドライアイ治療)

フルオロメトロン点眼液 0.1%「NIT」 (ステロイド点眼薬／抗炎症薬)

薬の服用②

■心療内科

ロラゼパム錠 0.5 mg「サワイ」（抗不安薬／ベンゾジアゼピン系）

セルトラリン錠 25 mg「サワイ」（抗うつ薬／SSRI）

ゾルピデム酒石酸塩錠 5 mg「サワイ」（睡眠導入薬）

ドグマチール錠 50 mg（抗うつ・消化機能改善薬／スルピリド製剤）

■サプリー：オオバコ、クルクミン、ルチン、ゼアキサンチン、ブルーベリー

主訴としてご本人が記載されたもの

- **眼痛**がx年10月より生じて、大学病院含め色々周りましたが原因も不明で良ならず、勝手ながら自律神経からもきているのではないかと考えています。今後、脳等人間ドック受診も考えています。
上記の他、もともと**右足親指が痺れて**いたり、最近**右手の痺れ**も不定期に生じ**右手だけ冷たい**状態になっています。
さらに**首の痛み**も出てきて満身創痍のため、鍼も試してみたく思いました。
※客観的にも手足の冷えは顕著、整形外科受診無し
- 初診問診時、工作中、オフィスの中にも関わらずにサングラスをかけていないと眩しいと感じるぐらい**光に過敏**になっていると言及。目の灼熱痛は両目を取り出して日焼けサロンでずっと焼かれている感じとのこと。

現病歴の時系列

- **X-1年9月**：仕事が忙しく、細かい作業で眼を使う。4月に引っ越しも重なり**ストレス過多**に。睡眠時間も少なく、心に余裕なく、自分で自律神経が乱れていると感じていた。職場へは毎日都内のオフィスに通勤（ドアtoドアで30分ほど）、デスクが並ぶ一般的なオフィス。
- **X-1年10月**：**急に両目の渴きと若干灼熱感**を感じていた。寝れば大丈夫と思っていたが1週間経って、どんどん酷くなるので眼科受診。ロコミの評価は良かったものの検査器具なども古びれた感じがあり、信じられなくて転院。**ストレス過多で夜中までお酒を飲んでいた**（缶ビール3缶程度をゆっくりと。）

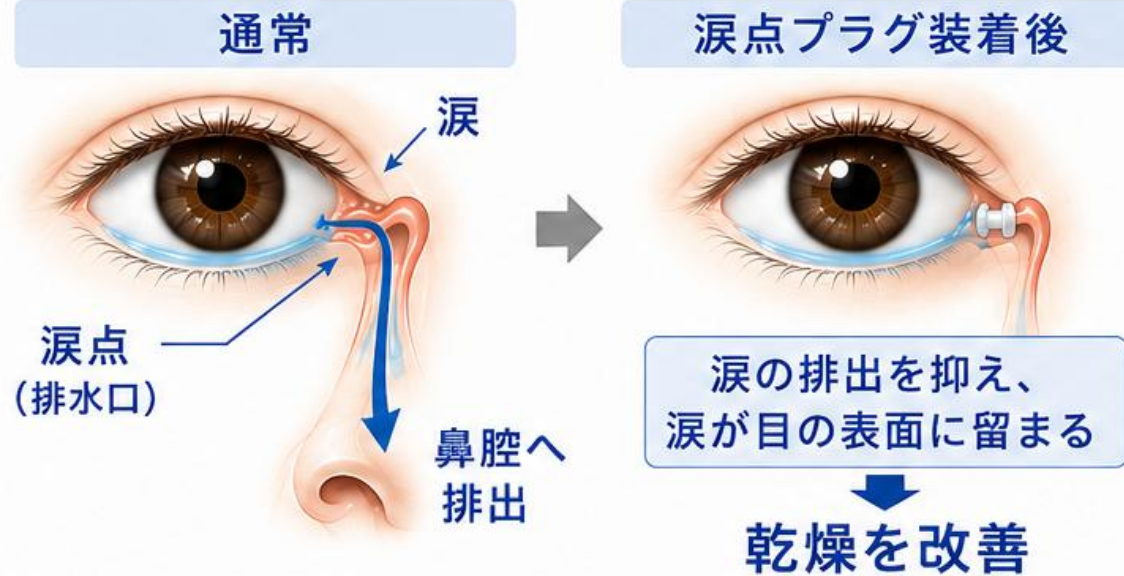
現病歴の時系列

- **X-1年11月**：次に会社の近くの有名な眼科（大きくて眼の総合病院と評判なところ）へ。**診断結果は斜視**。治療方法はなく、斜視用の眼鏡を作るしかないといわれた。
- その1週間後、自身でドライアイでないの？と思った。
大学生のころ、**レーシック手術**を行う。その際、コンタクトレンズで眼が傷ついていて、乾燥しているとその際のドクターから言及
- レーシック手術当時の眩しい感じを思い出し、自宅近くの眼科へ。そこで**斜視ではなく、斜位**である可能性が高いといわれる。ドライアイの治療をしましょうと云われ、**目薬と涙点プラグ**を実施。しかし1,2週間経って変化なし。
※目薬の薬品名不明、涙点プラグ次スライドで説明

涙点プラグとは？

涙の排水口を塞ぎ、涙を保持する治療

1. 作用機序



2. プラグの種類

一時的 (吸収性)

コラーゲン製など
数日～数週間で自然吸収

半永久的 (非吸収性)

シリコン製など
取り外し可能

3. メリット

- ✓ 涙の排出を抑制し、涙層を安定化
- ✓ 点眼薬の効果を長く持続
- ✓ 薬剤に頼らない涙の保持
- ✓ シリコン製は取り外し可能

4. デメリット・リスク

- 異物感、違和感を感じることもある
- 炎症・感染のリスク (まれ)
- プラグの脱落・位置異常
- 炎症が強い時は不適な場合がある

現病歴の時系列

- **X-1年12月**：心配した会社の先輩から**大学病院**を勧められ転院。その大学病院で初診時に眼の痛みに詳しい病院があると紹介されてその日に転院。原因を追究する為に**目薬と涙点を埋める薬（キープティア）**を行い、**効果なし**。
- **X年1月**：**心療内科**の受診を勧められる。転院。**抗不安剤**を処方。診断はなし。このままいくところない感じて**鍼灸院**を選択

生活状況（仕事、家庭環境等）

- **1人暮らし、X-1年の4月に転職、9月に引っ越しをされた。**

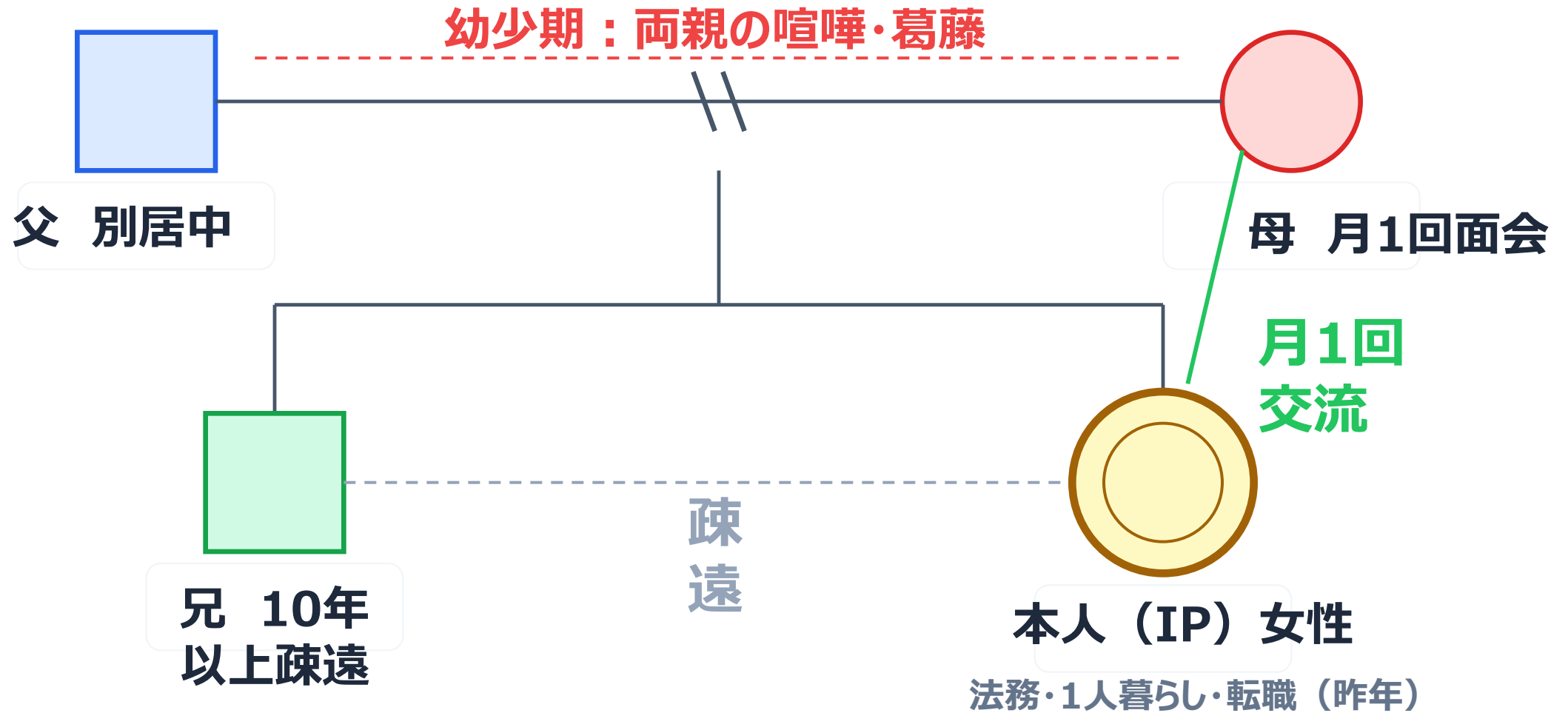
仕事内容としては法務。一日8時間週5勤務。**基本デスクワーク。**

仕事は楽しい。改善されていないことを改善する達成感があり、楽しい。

ご家族は兄、母がおり、母とは一ヶ月に一回はあっている。幼少期は父親と母親の喧嘩がつかった。今は両親は離婚して離れて暮らしている。

兄とも10年以上疎遠。転職してから仕事のストレスがあったが目を悪くしてからは仕事をセーブしてストレスを調整できるようになった。

ジェノグラム



凡例 □ 男性 (青枠) ○ 女性 (赤枠) 二重円 = IP (本人) // = 離婚 赤破線 = 葛藤 灰破線 = 疎遠 緑線 = 近い関係

心理社会的背景

・疾患に対する本人の状態

不安もある中で、治る治る治ると自己暗示をしていた。この症状には意味があると信じていた。仕事をセーブするとか、目の悪い人にやさしくするなど、不自由を感じて気づくことがあるんだ、と考えていた。

しかし、不安の程度は莫大で、目を使えなくなるかもと思っていた。一生閉じこもって暮らすかもと思っていた。人見知りで責任感高く、仕事もしっかりやるタイプ。発症当時、仕事では関係の悪い上司の二人の間に入るような状況でストレスを非常に感じていた。経済的には困っていない。

客観的情報

身長: 161cm 体重: 53kg BMI: 20.4kg/m²

体温: 36.4℃

脈拍: 測定せず

血圧: /mmHg測定せず

SpO₂: 測定せず

東洋医学的情報

証:裏実平証、痰濁証、肝うつ気滞証

寒熱:寒 **燥湿:**湿 **食事:**旺盛 **二便:**便秘気味、尿が近い

睡眠:寝つきが悪い **月経:**月経痛（月経前半）、月経前に不調を感じる

七情:落ち込みやすい **水滯:**足のむくみ **硬結:**頸肩部に多数

圧痛:魚腰に顕著

脈診:脈沈弱

舌診: 齒痕舌、

舌色: やや紅、舌尖紅 **舌形:** 特に目立つ所見はなし **苔:** 白薄苔

腹診:胸脇苦満、側腹部の圧痛、鼠経靱帯の圧痛

治療

流派:整動協会

取穴:漏谷-太陽、中都-帯脈、合谷、太衝（四関穴）、眼窩内刺鍼、魚腰、背部阿是穴

刺鍼法:深刺-置鍼（5分～10分） 術式なし

得気:患者感じることもあり、施術者は特に得気に対しては意識することはないが、響きが起こりやすい場所では響きすぎに気をつけていた

深さ:7～10mmほど

通電:有（1Hz-10分）（時に行う）両太陽をつなぐ

頻度:1/w

整動鍼（せいどうしん）とは：再現性、即効性

「動きをツボで整える」 創案：栗原誠（整動協会）2014年

背景：活法（かっほう）

古武術由来の整体術

筋の張力を瞬時に
変化させ

動きを整える技術

この発想を鍼灸に
応用した

のが整動鍼のはじまり

理論：張力理論

ツボ同士は「張力」で
引き合っている

一方を緩めると
もう一方も同時に変化

経絡ではなく筋肉の
「連動」で説明する

※経絡理論も活用する

整動鍼の特徴

基本的には
遠隔のツボで施術する

刺鍼直後に
可動域や圧痛が
変化する

mm単位の取穴で
誰でも再現できる

経過

x年1月 初診。HPより予約、来院。かなり憔悴されている様子。

医療面接を手厚く行い、把握、共感することに時間を割いた。

鍼灸は初めて。施術者自身も大学病院でもやることがなくなったと

云われる症例に鍼灸でどこまで力になれるわからなかったがまずは

5回試してみましようかと伝え、5回で全く変化が乏しい場合は私の力では

難しい症例になりそうですと正直に伝えた。**中都に鍼、背部阿是穴**

(毎回背部阿是穴には施術を行う)

何とか力になりたいという想いで改めてカルテを見直すと共にPub Med

を調べる。特に直接的に参考になった論文は見つからなかった。

※スライド17,18に参照

参照論文①

- Duan H, Zhou Y, Ma B, Liu R, Yang T, Chu H, Huo Z, Qi H. Effect of Acupuncture Treatment on the Ocular Pain, Mental State and Ocular Surface Characteristics of Patients with Dry Eye Disease: A Non-Randomized Pilot Study. Clin Ophthalmol. 2024 Oct 3;18:2751-2764.

⇒鍼灸はドライアイ患者の眼表面の状態を改善し、眼痛と抑うつ状態を軽減する可能性がある。この過程には、鍼治療の抗炎症作用が関与していると考えられます。

参照論文②

- Rosenthal P, Borsook D. Ocular neuropathic pain. Br J Ophthalmol. 2016 Jan;100(1):128-34.

⇒鍼灸はドライアイ患者の眼表面の状態を改善し、眼痛と抑うつ状態を軽減する可能性がある。この過程には、鍼治療の抗炎症作用が関与していると考えられます。

経過

x年1月 2回目。初診より3日経過。前回とほとんど症状には変化がない。**三叉神経痛と動眼神経副交感繊維の麻痺である可能性**をお伝えする。※考察で後述
合谷-太衝、魚腰、漏谷に鍼。
眼瞼に台座灸を行う。
眼窩内刺鍼が良いかもしれないと提案。

x年1月 3回目。2回目より1週間後。若干の変化があったかもしれないとご本人より言及。眼窩内刺鍼は怖いとのことで変化が出ているため、やらなくても良い可能性をお伝えする
両太陽穴に刺鍼、パルス（1Hz-5分）

経過

x年2月 5回目。サングラスを外せるようになってきたと言及。

眼球周りの灼熱感もVAS (10⇒7) へ。**四関穴を使用**

ご自身でも希望が生まれてきてお酒の量が減らす努力をする

x年3月 8回目。7回目まで徐々に良くなっていた (VAS10⇒5,6)

が急に症状がもとに戻ったようだと訴える。

ここで**眼窩内刺鍼**を行う。

魚腰から眼窩上部の骨に沿うようにして丁寧に刺鍼

経過

x年3月 9回目。VAS (10⇒4) 眼窩内刺鍼が効果的であったか
眩しい感じは残る

x年4月 11回目。VAS(10⇒2,3) 眼窩内刺鍼、四関穴、
背部阿是穴、

症状が安定して良くなり、気分が全く違うと言及
調子もいいので間隔を空けて様子を見ていくことを提案

症例に対する考察

- 今回、ご本人の訴えを聴取した際、本当に良くなるのか？という疑念が深くなった。ゆえに**誠実に正直にわからないと答えた**。しかし、なんとかこの方のために良くしたいと考え**論文に当たったことが良かった**。

ほとんど症例はありませんでしたが、その中でお役に立ちたいという気持ちと冷静になる気持ちが相重なり、思考が深まり初心に帰ることができた。

- そもそも眩しいということは瞳孔がどうなっているのか？ 瞳孔括約筋の作用が低下しており、縮瞳ができないことから支配神経を考察して、動眼神経副交感繊維麻痺ではないか？
- 目が日焼けサロンで焼かれている感じとはそもそも痛みとして考えたら何が起きているのか？ 感覚神経から侵害刺激である可能性が高いと捉え、支配領域である三叉神経痛（眼神経領域）ではないか？と推察できたことが良かった。医は仁術なりという理念に立ち戻れた。

良かった点と限界・反省点

なぜ経過が良く、症状が改善したかは不明だが、あの手この手を試して、結果として症状が改善し、普段のサングラス生活や一生治らないのではないか？という絶望感から解放できたことは良かった。そもそも眩しいということは瞳孔がどうなっているのか？

西洋医学、東洋医学を用いて、**目の前の患者さんの医療は自分が切り拓く**という感覚が大事であるという気持ちを思い出せたのが良かった。

反省点としては、患者さんの言葉に捉われて動じてしまったことが気持ちの準備不足だったと反省している。普段の臨床でも気づかぬうちに慢心や捨象があるのだと思う。

症例から得た主要な教訓(まとめ)

- どこにいてもよくなるという言葉信じすぎず、**医は仁術なり**などの初心に戻り、捨象や慢心を捨て、ゼロベースで現象を捉えることが時には大切。
- Pub Medなど論文に頼ることも重要
- 少しでも希望を持てたら人生の質そのものが向上するきっかけになる。
(病は健康になるためのプロセスである)
- 自助努力を促すことができたのが良かった。※酒量を少なくする努力など、気持ちが前向きになって健康に対して自立が促せた。

文献

論文

- Duan H, Zhou Y, Ma B, Liu R, Yang T, Chu H, Huo Z, Qi H. Effect of Acupuncture Treatment on the Ocular Pain, Mental State and Ocular Surface Characteristics of Patients with Dry Eye Disease: A Non-Randomized Pilot Study. Clin Ophthalmol. 2024 Oct 3;18:2751-2764.
- Rosenthal P, Borsook D. Ocular neuropathic pain. Br J Ophthalmol. 2016 Jan;100(1):128-34.
- 書籍：ツボがある本当の意味（栗原誠著）